

デザイナーズ・アイ

Designer's
eyesインテリアのフロが見た、感じたインテリアの現場や、
注目するインテリアスタイル、エッセンスをご紹介します

古今東西 “窓” 物語

丸山 千里 インテリアデザイナー



丸山 千里/まるやま ちさと

株式会社デコラドール (東京都) <http://www.decorador.co.jp/>

カナダ留学後、外資系企業に10年間勤務

在籍中ミサワインテリアスクールにてインテリア全般を学ぶ

退職後イギリスに渡り、インテリアデザインとソフトファニッシングコースを習得

帰国後都内のオーダーカーテン・インテリア専門店2社で経験を積む

2008年2月東京・二子玉川にてデコラドールを開業

個人邸・商業施設などカーテンを中心にインテリア全般の提案を行う

インテリアスタイリングプロ メンバー <http://www.stylingpro.jp/>

建物に当然のごとく付いている「窓」。たかが窓ですが、されど窓。人間の生活には無くしてはならないものです。

では、窓やカーテンはどのように登場し、何のためにあるのでしょうか？

西洋の窓と日本の窓

窓はその国の建物の歴史とともに変化してきました。西洋において窓は、石の壁で囲まれた建物の採光、通風、換気を目的として作られ、その開口部は小さかったようです。

一方、日本の窓は、いわゆる建具の役割を担っていました。「間戸」と呼ばれ、柱と柱の間にある壁全体が間戸でした。やがて障子が登場し、書院造から茶室に見られる窓へと発展していきます。日本建築においての窓は美観の一つとしてとても重要視されてきました。自然を愛する日本人は、窓から眺める景観を楽しみ、絵のように見せるために窓の形も様々に工夫していました。

時代が流れ、建物に機能性を追求していくようになると、次第に窓もそれに合わせて変化していきます。今では多種多様なデザインや機能が施されており、特に最近の窓開発には目覚ましいものがあります。

カーテンヒストリー

ローマ時代、寒さ凌ぎ

や間仕切りの役割として布を吊っていたのが「カーテン」の始まりとの見方があります。西洋の建物の多くは石造りです。石は硬く特に冬はとても冷たいものです。室内で暖をとるにしてもガラスの無かった時代、窓から容赦なく風が入ってきます。そんな中でベッド周りを布で覆って寒さ対策をし、窓にも布を垂らして風を防ぐようになりました。やがて織物の技術が進み、防寒対策のただの布に装飾が施され、キャノピーやカーテンへと進化していったのです。現代の西洋ではカーテンは寒さ対策を基本としていますが、装飾的目的が強く、インテリアの大事な要素として存在しています。

窓を飾る文化

写真は私がヨーロッパを旅した時に撮ったものです。室内にはカーテンを施し、外には植物や柵に工夫して、小さな窓を精一杯飾っています。柵は防犯でもあり、また装飾品でもあるのですね。窓は人に見せるものであり、また見た人は窓を通して室内に広がる素敵な空間を想像します。

日本は歴史が異なるため、まだまだカーテン文化は発展途上ですが、美々を楽しむ日本人だからこそ、窓や窓装飾としてのカーテンにもっと注目して欲しいものです。

